

(小論文 1 日目)

問題用紙

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

アイチさんは、今の会社に転職して3ヶ月になります。

最初の1か月は、A地点からB地点に大量の石を運ぶ作業をしました。次の1か月は、B地点からC地点に、次の1か月はC地点から再びA地点に大量の石を運びました。ただ、アイチさんは最初のA地点のことをそれほどちゃんと覚えてはおらず、C地点からA地点に石を運ぶ際、似たような違う場所だと思って運んだようです。

アイチさんは、この作業がいったい何のために行われるのか知りません。理由を聞かないことが入社条件であり、給料や休暇に不満がなかったことから、この会社に勤め始めたのです。

実際、アイチさんが行っている作業は全く意味がないものです。石は何に使うものとも決まっておらず、移動させる必要もなく、ずっとA地点にあっても、移動させても、何ら問題はありません。

アイチさんは今の仕事に不満を持っている様子はありません。そして、家族を養うためにも、仕事を辞めたくないはずだとあなたは知っています。

さて、アイチさんにこの事実を教えるべきでしょうか？

北村良子『発想力を鍛える33の思考実験』 一部改変

問い

本文中の「あなた」の状況に類似したものを挙げてください。なぜ似ているかも含めて600字以内で説明してください。

(小論文 2 日目)

問題用紙

次の文章は、世界的に有名なくまのプーさんと友達のクリストファー・ロビンとの夏休み最後のお別れの日の場面です。これを読んで後の問いに答えなさい。

そこで、ふたりは出かけたのですが、そのうち、クリストファー・ロビンがプーに、

「プー、きみね、^{せかい}世界じゅうでいちばん、どんなことをするのが好き？」

「そう……」と、プーはいいました。「ぼくはいちばん——」と、ここまでいってから、プーはかながえこまなくてなりませんでした。なぜかという、ハチミツをたべることは、ずいぶんいいことではありましたが、たべるよりちょっとまえに、ほんとにたべているときより、もっとたのしいときがあります。でも、プーは、それをなんと^よ呼んでいいのかわかりません。それからまた、クリストファー・ロビンといっしょにいるのも、いいことだし、コブタがそばにいてくれることも、心やすいことだし……で、いろいろ思いあわせたあげくに、プーはこう答えました。

「ぼくが、^{せかい}世界じゅうでいちばん好きなのはね、ぼくとコブタで、あなたに会いに行くんです。そうすると、あなたが『なにか少しどう？』っていって、ぼくが『ぼく、少したべてもかまわない。コブタ、きみは？』っていって、外は歌がうたいたいくなるようなお天気で、鳥がいないってのが、ぼく、いちばん好きです。」

「ぼくも、そういうのは好きだ。」と、クリストファー・ロビンはいいました。「だけど、ぼくがいちばんしてたいののは、なにもしないでいることさ。」

プーは、ずいぶんながくかかってかながえてから、ききました。

「なにもしないって、どんなことするんです？」

「それはね、ぼくが出かけようと思つてると、だれかが、『クリストファー・ロビン、なにしに行くの？』ってきくだろ？ そうしたら、『べつになんにも。』っていって、そして、ひとりでいって、するだろ？ そういうことさ。」

「ああ、そうか。」

「ぼくたちがいまやつてることが、なにもしてないことさ。」

「ああ、そうか。」と、プーはいいました。

A. A. Milne, THE HOUSE AT POOH CORNER 石井桃子訳『プー横丁にたった家』より引用

問い

クリストファー・ロビンが言う「なにもしないでいる」ということについて、あなたが考えたことを 600 字以内で書いてください。